

関西圏国家戦略特別区域会議(第12回)
～ 大阪府提出資料 ～

2017年2月10日

大阪府

課税の特例措置活用事業

実施主体：大日本住友製薬株式会社（大阪府大阪市中央区）

実施場所：大阪府吹田市江の木町33-94 大日本住友製薬株式会社 総合研究所

特定事業：iPS細胞を用いた再生医療製品の事業化を目的としたGMP適合生産施設の構築事業

事業内容

他家由来のヒトiPS細胞を用い、対象疾患ごとに適応した再生医療製品の生産及び提供



製造プロセスの
一貫性

製品の
安全性
安定性
均質性

レギュレーション対応

タイムリーな供給

製造コスト削減

継続的な技術開発

開発初期段階から専用の生産施設が必須

要求条件を満足する生産施設構築



加齢黄斑変性
網膜色素変性

パーキンソン病

脊髄損傷

〈施設一例〉



世界に先駆けた生産拠点を構築し、日本から世界市場に向けて信頼に足る再生医療製品を提供することにより、先端医療分野における国際競争力の強化に寄与

吹田市における都市公園内の保育所設置特例の活用について

大阪府の状況

- ・大阪府では、都市部を中心に待機児童は増加傾向（平成28年4月時点で待機児童数1,434人、前年度比69人増）。
- ・既存ストックの活用も念頭にさらなる保育の受け皿整備の促進が必要。

吹田市の状況

- ・吹田市の待機児童数は、平成28年4月時点で230人、前年度比140人増（増加数は全国第5位）。
- ・就学前児童数や保育利用希望者が増加中（就学前児童数:平成28年4月時点21,388人、前年比653人(約3.1%)増。保育所利用申込み数:平成28年度2,481人、前年度比373人(約17.7%)増。※平成29年度2,703人)。※速報値。
- ・保育所等の整備を行う上での課題:待機児童が多い地域に保育所等に適した用地の確保が困難。
- ・吹田市では、市庁舎敷地や小学校敷地の活用、市立幼稚園の認定こども園化など、多様な手法を用いて、保育の質を下げることなく受け皿を確保するための施策を、待機児童解消アクションプランとしてまとめ、平成28年度からの3年間で2,150人分の保育の受け皿を確保する。



都市公園内の保育所設置特例の活用により、吹田市の高野公園(南千里市民プール跡地)に保育所を設置し、特に利用希望者の多い阪急南千里駅周辺の保育需要へ対応(120人分)。【待機児童解消アクションプラン】

【施設概要】

所在地 : 吹田市高野台1丁目4番
公園名 : 高野公園 約27,000㎡
設置主体 : 社会福祉法人玉川学園
占用面積 : 2,696.25㎡
整備施設 : 保育所 (木造 平屋建て)
定員 : 120名(0歳児~5歳児)
開設日 : 平成31年4月1日(予定)

<吹田市 高野公園>

【適用区域】



【イメージパース】



※都市公園としての風致及び美観に配慮するため、保育所の敷地は、道路から直接乗り入れが可能な位置に配置し、園舎は平屋建てとします。

大阪における
『グローバル技能 外国人人材』
の受入拡大に向けて

2017年2月10日

大阪府知事 松井一郎
大阪市 市長 吉村洋文

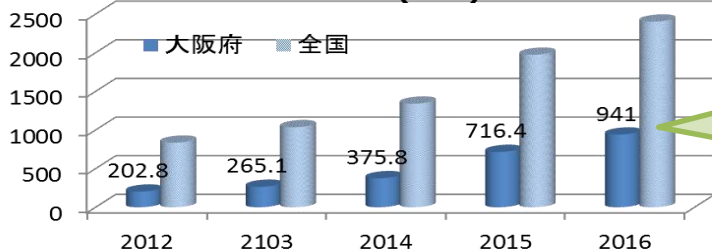
国家戦略特区における『グローバル技能外国人人材』の受入れ拡大《提案の趣旨》

- 外国人人材の受入れ拡大については、2017年1月20日の国家戦略特区諮問会議において、民間有識者から、受け入れ人材の質を担保するための措置を前提として、必要な法的措置を、直ちに講ずべきとの提案がなされたところである。
- 大阪においては、2016年にインバウンドが940万人に達し、国際的な存在感を高めつつある。また、人口が減少する中、東西二極の一極、日本の未来を支え、牽引する成長エンジンとなる『副首都』として発展を遂げるため、2025年万博や統合型リゾート(IR)のインパクトも活用しつつ、グローバルな競争力を高めようとしている。
- こうした中、クールジャパン、インバウンド、健康長寿などの分野において、一定の技能を有する外国人材(『グローバル技能外国人人材』)の受入れは有効であり、我が国の経済成長にも寄与するものと考えられる。
- 一方、外国人の受入れには、日本人の雇用への影響等を懸念する声もあるが、日本の将来のためには、課題を克服しつつ、積極的に検討・推進していくべきであると考えられる。
- そのための手段として、ますます国際化する都市のニーズを踏まえ、国家戦略特区を活用した『グローバル技能外国人人材』の受け入れについて、関係省庁との調整をすすめ、必要な規制改革など、早急に実現されるよう、望むものである。

大阪における『グローバル技能 外国人人材』の受入れ拡大に向けて

インバウンドの激増

訪日・来阪外国人観光客数(万人)



- ・大阪は去年の3割増
- ・NEWYORK TIMES誌 2017年行くべき世界の場所52に選定

資料：国土交通省観光庁、大阪観光局：来阪外国人観光客数は訪日外国人客数に訪問率を乗じて算出。2016年は速報値

成長エンジンのインパクトとなる招致プロジェクト



2025日本万国博覧会



IR(統合型リゾート)と万博が計画される夢洲

『副首都』としてグローバルな競争力の向上へ

特区を活用し、地域のニーズやポテンシャルに応じた分野の外国人人材の受入れを拡大

■ 受入れ分野

大阪のポテンシャルを活かし成長が期待できる、『グローバル技能人材』が必要な分野

インバウンド分野

- ・ホテル、観光
- ・警備、流通 など

クールジャパン分野

- ・料理、アニメ、美容、ファッション、デザイン など

健康・長寿分野

- ・医師、看護師 など

■ 必要な規制改革等

国で検討中の人材受入スキーム案の実現

- ・対象分野は、インバウンド、クールジャパンなど“包括的に”定めておき、「ホテル」「料理」など具体的な業種は、「区域会議」で機動的に選定できる仕組みにする
- ・資格検定により、技能ある人材を選定する
- ・人材受入れ基準(入国や就労の許可)明確化のための措置

- 英語による資格試験を受験可能とする措置等により、その活躍を拡大

その他、技能実習を終えた人材で、高い技能を活かして就職を希望する場合の在留資格の充実